

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2291200034		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	御殿場ケアセンターそよ風 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県御殿場市萩原122-13		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2291200034-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2291200034-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症の進行や高齢化でADLの低下は、否めませんが利用者様お一人おひとりに合わせた機能訓練や役割をもっていただく事で、機能低下を防ぎ、張りのある生活を送っていただけるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

御殿場インター近く、目前に富士が迫る場所に事業所はあります。退院後の利用者を職員が改善向上へと胸膨らませて「お帰りなさい」と迎える頼もしさは、開設から8年の間に離職者も少ない熟練のチームワーク力が下支えています。カテール留置でかつ立位、歩行が困難であってもトイレでの排泄を試み、また食べることの認識を失うことがないよう周囲に食べ物を欠かさず配しての取組みのなか床ずれも治り、今後は布パンも可能ではないかというところまでADLが良好となったケースもあります。入院を余儀なくされても夕食を弁当にして届け、摂食障害を未然に防ぐ真摯な姿には家族だけでなく誰もが敬意を表します。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)] [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両ユニットで作った理念は、常に見えるようにし、共有し実践につなげている。	事業所独自の理念を作成しています。今年度は各ユニット職員が“(利用者の)健康管理、”を目標にしています。会議では具体的な事例を通して達成が確認され、賞与・昇給の機会にも省みえています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さんや地域包括からの情報提供で、地域活動に参加させていただき交流している。	公民館主催のふれあい祭りでは事前に組長から声がかかり、アクティビティでの作品を展示しています。季節行事の度にリミック披露に訪れる園児とは、日々の散歩でも手を振ったりなど微笑ましい情景があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括や民生委員さんを通じて、地域の活動に役立つ事はないかを話し合い取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、偶数月の第2土曜日と決め、状況報告や話し合い等でサービスの向上に活かしている。	運営推進会議に毎回参加の民生委員の申し入れから、本年度は地域の民生・児童委員10数名の見学会を受け入れました。民生委員は常日頃から地域情報の提供に余念がなく、事業所も積極的に取り入れています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所が近隣にある為、分からない事や協力してもらいたい事など、直接、担当者の所へ行き、協力してもらっている。	偶数月の第二土曜日開催と分かり易いためか、運営推進会議には地域包括支援センター職員がすべて出席くださっています。市職員も休日にも関わらず年2回程度は参加があり、事業所の適正運営に協力的です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修で職員全員が認識できるよう取り組んでいる。	静岡県が主催する研修会にも申込を予定し、新たな知識習得に意欲的です。「妨げるのではなく“共に、寄り添う”」その人の目的を理解することに着眼するように」と職員を指導し、その人のこだわりや気がかりなことを大切にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や勉強会を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や会議、勉強会で学ぶ機会を多くもち職員全員が理解出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等は、十分説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族会や運営推進会議等で話し合い、運営に反映している。	大半の家族は面会が頻回で、また家族会と運営推進会議とで年8回ものコミュニケーションの場があります。役割をもった生活ができてるか、について関心の高い家族が多くいるため、その点を重視して取組んでいます。	様々な家族が運営推進会議に参加することで、運営への提言がさらに得られていくことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議等で話し合い、運営に反映している。	開設から8年を経っていますが当時からの職員が7名も残っていて、働きやすさがあることが伝わります。熟練者の良さは光ってもベテラン主導とまらない会議運営があり、意見がまんべんなく挙げられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回の個別面談を行い、向上心をもって働けるよう話し合い、評価を行う事で、給与、賞与の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加や勉強会、資料の配布で知識を高め、実践できるよう育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修、会議に参加しグループホームの相互交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から、生活への不安や要望等を聞き、安心できる生活や環境づくりを行い、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報をもとに、困っている事、不安な事やご本人、ご家族の要望が実現できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や計画作成がご本人の要望を受け止め、必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護をするのではなく、日々の生活の中で協力し合い、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻繁に来所してもらい、ご本人の様子を報告し、要望に対してもご家族に協力していただき、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、実現できるよう支援している。	面会時間を制限せず、いつでもウエルカムの状態をつくっています。法事をはじめ親戚縁者の集いは家族の送迎で出席が叶っています。民生委員が「御輿は〇時に通るよ」と知らせてくれ、見逃すことはありません。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で出来る事、出来ない事を理解していただき、お互いに協力し合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご本人、ご家族が必要とされる支援をし、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話からご本人の希望や意向を聞き、それに近づけるよう努めている。ユニット会議や、申し送りノート等で情報共有している。	着替えの際には「どちらがいいですか?」と選べるように提示し、自己決定してもらえよう工夫しています。チラシで簡易ごみ箱をつくることに夢中な人の居室には整然と置まれたごみ箱が並び、安寧な暮らしが覗えました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は、ご本人、ご家族から情報をいただき、これまでの経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を観察し、毎日の申し送り、申し送りノート、介護記録などで情報共有している。その方のペースに合わせて過ごしていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族と話し合い、ケアマネ、計画作成が介護計画書を作成し、ケース担当が月に1度の支援経過、3ヵ月毎にモニタリングを行い、ケース会議で話し合い、計画書の見直し変更を行っている。	医師をはじめ専門職の意見も反映させ、支援経過も含め家族に提示してサービス担当者会議を開いています。また他県在住の家族にも来所をお願いし、決められた方法に則り法令遵守に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入を徹底し、職員は常に記録に目を通し、申し送りノートを活用する事で介護の実践、計画書の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望、意向に沿った形で柔軟に支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さん、班長さんを通じて、地域の情報を提供していただき、地域行事に積極的に参加し、交流させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力病院の往診を受けている。地域連携室のナースが対応してくれ、適切な医療が受けられている。	午前中は看護師が常駐しており、ほかの時間帯も併設のデイサービスに看護師がいて、安心の環境にあります。協力医以外でも管理者が受診に付き添い、その人の医療に係る周辺情報を把握しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、利用者様個々の健康管理、介護職員の相談に対しての助言をしてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院のソーシャルワーカー、地域連携室と情報交換し、早期退院がスムーズに行えるよう連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に十分説明している。重度化、終末期のあり方についても状況に応じ、話し合っている。必要に応じ、月2回の往診時に同席いただき、Dr.に説明していただいている。	これまで終末期の取組みはありませんが、医療連携は整っています。離職率が少なく事業所としての実績がないため、職員のなかに経験者が少ないことが課題です。家族には方針への同意を得ており、また日々の状態変化を理解してもらうようにしています。	法人内で看取り経験のある事業所職員を一度勉強会の講師として招くことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは、すぐに見られる所に掲示し、年に数名ずつ、救命講習を受講できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、夜間想定も行っている。又、地域の防災訓練は、毎回参加させていただいている。	日頃の散歩や生活動作への配慮が功奏して地域の防災訓練には利用者も参加できています。年2回の所内訓練には防災機器の専門業者の立ち合いもあり、職員の理解にも標準化がみられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の言葉遣いや接遇に関しては、本社からの定期的な通達もあり、職員一人ひとりに指導し、対応している。	法人全体でのPマーク取得に向け個人テストが実施され、職員の口から「これって個人情報だよね」とこぼれる変化が生まれています。親しみを込めた方言が他者からは不快なやりとりとなっていないか会議で振り返っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを受け止め、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースに合わせ、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時の静養の支援、定期的に散髪や毛染めなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに配慮し、季節の物やバランスを考え調理している。食事の下ごしらえや片付けなど、利用者様と一緒にしている。	認知症の進行によっては器の色や形態を替えたり、また職員が輪番で検食もしています。退院後まもなくから周囲に食べ物を置き、「食べることを忘れないように」と努めるというだけあって「食」への配慮が感じられるメニューです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、その方の合わせた形状で食事を提供している。食事量が少なくなっていく方には、高カロリー食品、飲料で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、誘導を行い出来ない方は介助している。義歯は、就寝時に消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりに合わせたトイレ誘導、介助を行い、不快なく過ごせるよう支援している。また、行動や表情などに注意し、トイレで排泄出来るよう努めている。	ゆうに3畳はあるかと思われるほど広い車いす対応のトイレを含め、各ユニット3箇所設置されています。心身状態が悪化しても本人の意思を尊重して職員手作りの補助器具を頼りに2人介助でトイレでの排泄が叶っている人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤の服薬は極力避け、野菜を多く取り入れるなど、食物繊維の摂取量を増やしている。また、1日のどこかで体を動かす時間を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に沿って入浴していただいている。入浴剤を使用し、時期によって、菖蒲やゆずを入れるなど季節感にも配慮している。	希望や汚れがあった場合はいつでも入れるよう準備されていますが、原則日曜日は休浴日です。拒否のある利用者にもその人それぞれのパーソナリティに前向きな関わりをもつことで、自然に入浴へと誘うことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣、希望、状況に応じて休息や睡眠をとっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、お一人おひとりの服薬している薬剤情報を共有し、服薬支援、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望を聞き、楽しみや喜びをもっていただけるよう支援している。日常的に役割を持っていただく事で自信につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩に出掛けたり、外に出られない時はベランダへ出て外気浴をしている。朝のごみ捨ては日課となっている。ご家族の協力でお墓参りや法事に出かけられている方もいらっしゃる。	寒さ、暑さは避けて散歩は習慣づけています。また毎日午前中には15分程の歩行訓練をおこなったり、ごみを出すといった生活のなかで“歩く、”ことに気遣っています。併設デイサービスの車輛を借りてのドライブでは、公園や富士霊園に花見に出掛けています。	歩行や移動の自立が叶わなくなっても、外出の機会が減ることのないような取組みを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行き、ご自分の欲しい物、必要な物を選び、ご自分の財布から支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、利用者様が作った作品や季節感のある物を飾り、不快なく過ごしていただくよう配慮している。	「幼児性がある装飾は避けるように」との法人本部の意向もあり昨年度よりやや壁面は寂しくなった印象が残りますが、シックでモダンな壁紙と大きな窓からの採光によって清潔感のある空間は健在です。ソリーションウォーターろ過機は24時間365日稼働しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気の合った利用者様が一緒に過ごされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んでもらい、その人らしい居場所を作っていただいている。	富士ユニットからは白いコートを羽織った富士山が迫り、荘厳な気持ちになります。収納力の高いクローゼットのおかげでどの居室もすっきりと整頓され、飾り棚の家族写真が暮らしのアクセントとして映えていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには、手すりがあり、安全に移動できるよう見守り、介助している。出来る事は、時間がかかってもご自分でやっていただくようにしている。		